

平成 25 年 3 月 吉日

各 位

公益社団法人  
神奈川県病院薬剤師会  
会長 齋藤 昌久  
薬学生病院実習検討委員会  
担当副会長 長田 悟  
薬学生病院実習検討委員会  
委員長 橋本 真也

平成 24 年度第Ⅱ期関東地区調整機構実務実習実施状況について(お知らせ)

標記については、平成 24 年度第 2 回病院・薬局関東地区調整機構総会(平成 25 年 2 月 18 日開催)において、調整機構から報告がありました。

内容は同期に実施された病院・薬局実習時のトラブル事例、実習に関する学生の意見、また受入先である、病院・薬局側の意見などを取りまとめたものです。実務実習の円滑な遂行、また質向上のため示唆に富んだ内容となっています。

そこで、当会のサイトに掲載し、実務実習を受け入れている会員他に広く周知することといたしました。是非、内容をご確認いただき、ご参考にしていただければと存じます。

以上

平成24年度第Ⅱ期関東地区調整機構実務実習実施状況について（1）

実習実施時のトラブルについて：

1. 実習施設・指導薬剤師に起因したトラブル

- ・施設自体の建物が傾いており、それが原因と思われるめまい等の諸症状が出現し、病院を受診した。実習施設として物理的な問題がある。
- ・集合研修を本社のある大阪（2泊3日）で行いたいとの打診があった。安全面、公平性の観点から、問題がある。
- ・実習施設や地域外での研修が目立つようになってきており、中には泊りがけの小旅行的な研修もある。
- ・指導薬剤師が異動や産休になったことにより、実習の様子を常に把握できる状況になかった。他の薬剤師の指導により問題なく実習ができた施設もあったが、十分な指導ができていなかった施設もあった。
- ・指導薬剤師がほとんど不在で、指導が行き届いていなかった。改善を求めたが変わらなかったため、実習開始1ヶ月後に同一会社内の他の店舗へ変更した。
- ・名義上は指導薬剤師が在籍しているが、実際にいるのは週に1日程度で、指導しているのは他のスタッフであった。実習期間を通して、指導薬剤師はほとんど指導していなかった。
- ・患者の悪口を学生の前で言う、前に来た学生と比較し文句を言う、学生がやっていないことに対して怒る、質問しても答えないなど、指導薬剤師の学生に対する態度で実習中の学生から相談を受けた。
- ・指導薬剤師に個人のアドレスを教えたところ、実習と関係のないメールが届き、実習生が精神的な苦痛を受けた。
- ・男性指導薬剤師から、手を握られたり肩をもまれたりしていやだったと報告があった。また、「患部が下腹部の男性患者が来たらどうするの」と問いかけられた。
- ・指導薬剤師が機嫌の良いときに聞けば教えてくれるが、機嫌が悪いときには攻撃的になり、放置されることもあった。学生が実習に満足できなかった。
- ・実習開始前に、担当教員が指導薬剤師に学生のネガティブな情報を伝達したところ、指導薬剤師の指導が消極的になってしまい、学生の到達度に影響をもたらした。
- ・大学の批判、苦情を学生の前で行い、実習終了後、学生から苦痛であった旨報告を受けた。大学への提言、問題点の指摘は学生にではなく、大学へ直接言って欲しい。
- ・スタッフが実務実習を理解していない施設があり、アルバイトと勘違いしているような扱いを受けることがあった。

## 2. 学生に起因したトラブル

- ・持病による通院が頻回となり実習日数が不足したため、指導薬剤師と相談し、2週間の補填実習を行なった。
- ・業務終了後に職員と飲みに行った学生が、翌朝お酒の臭いをさせて実習にきたため、施設から苦情があった。
- ・レポート記載の時間に、実務実習生用のパソコンを開いて実習と全く関係ないサイトを見ていたために、嚴重に注意された。
- ・インターネットで課題の回答を調査中、全く関係ないサイトを閲覧していたために、実習の中止を勧告された。
- ・電車の遅延により実習に遅刻した。しかし、タイムカードを他大学の実習生に依頼して押してもらっていたため、不正行為として咎められた。
- ・もともと他人の評価を気にするタイプの学生であったが、他大学の学生より自分が劣っているのではないかという不安を教員に訴えてきた。指導薬剤師からは「よく実習できている」との報告を受けたが、最終週の発表会の間近になってから、実習施設より学生の状態が良くないと連絡があり、学生に確認したところ「土日は起き上がれなかった」と報告があった。学生と面談したところ実習の継続を強く希望しており、特に発表会のできが悪いと評価が落ちると気にしていた。最終週でもあり、指導薬剤師と相談して実習を継続することにした。発表会終了後は元気を取り戻し、実習を終了した。今後のことも考え、専門病院での受診を勧めた。
- ・最終日の討論会に5名の学生が無断で欠席した。
- ・1名が病気のために実習が中止となった。
- ・実習開始1週目に実習態度（座学時の居眠り）について指導薬剤師より注意を受けた。

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について(2)

大学と施設との連携について：

- ・実習施設との連携のために web システムを利用するとともに、実習期間中にも 2~3 回の施設訪問を行い、学生の実習の様子を確認するとともに指導薬剤師との連携を行った。
- ・実習終了後に報告会を開催し、実習成果を学生、指導薬剤師、教員間で確認した。
- ・毎月 1 回、実習施設の薬剤師を含めた実務実習委員会を開催している。また、実習施設の薬剤師および担当教員を対象に、指導能力向上を目的に指導者養成ワークショップを開催した。
- ・実習開始前、実習中の訪問 2 回および中間報告会（大学で担当教員と学生の面談）を実施した。
- ・実習学生の成績評価の一部に、実習施設薬剤師と教員による共同評価を取り入れている（総括的評価の 30%）。このため、実習開始前訪問等において、教員より実習施設薬剤師に対して、共同評価を実習施設と大学との連携の重要なこととして捉えていることを説明し、可能な限り共同での評価を依頼している。
- ・実習生、指導薬剤師、指導担当教員及び実務家教員による実習報告会を大学において開催するとともに、報告の内容をまとめた要旨集（CD-ROM）を作成している。
- ・実習 5 週目と実習 10 週目に大学登校日を実施しているが、実習 10 週目の登校日の様子を指導薬剤師に公開し、実習成果を共有した。
- ・実習終了後に、施設の指導薬剤師を招き、報告会を実施し、学生がスライド発表（パワーポイント）により実習内容の報告を行った。
- ・実習終了後、大学内において行われる成果発表会について実習施設にも案内を送付し、ポスター形式の発表を見学してもらった。

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について(3)

実習に関する学生の意見について：

1. 病院実習

1) 良かったこと

- ・チーム医療に参画し、多種多様な医療スタッフと接触することにより多くの実習学生がチーム医療の重要性を認識した。
- ・他職種と情報を共有したり、他職種の仕事を見学したことで、他職種の役割が理解できた。チーム医療を体験できて良かった。
- ・他職種がとても親切に声をかけてくれたのでコミュニケーションがとりやすかった。また、回診やカンファレンスなどでも詳細に所見を説明してくれた。
- ・病棟実習では一人の患者さんを担当させてもらい、その患者さんのSOAPを記載することで患者さんの問題点を抽出し、解決することができた。
- ・数名の患者を担当させてもらったため、治療方法を比較することができ、理解が深まった。
- ・計画したプランを医師に提案し、実行してもらうことができ嬉しかった。
- ・手術室等他部門の見学、研修ができて有益であった。
- ・系列病院での合同実習は他大学との交流ができるため大変有益である。
- ・大学で学んだことや試験で勉強したことが患者さんの命や病状に直結することを知った。
- ・抗がん剤のレジメンのチェックやミキシングがとても勉強になった。また、レジメンのチェックはその後の病棟実習でがん患者を担当するうえで大変有意義だった。

2) 悪かったこと

- ・実習生に対して対応のきつい薬剤師が多かった。
- ・実習項目ごとに担当の指導薬剤師が異なるため、実習の進捗状況の把握が不十分で何度か同じ講義・実習を行うことがあった。
- ・座学が多い施設が若干増えているようであり、学生は不満であったようである。病棟常駐加算を算定するために、実習生まで多少、手が回らなくなっている病院がある。

2. 薬局実習

1) 良かったこと

- ・調剤だけでなく、漢方、医薬品に関する教育、セルフメディケーション支援のためのOTC実習など、やりたいことをやらせてもらった。後輩にもこの薬局で実習をしてほしい。
- ・予想以上に充実した実習を行えた。服薬指導を何度も経験できたので、患者さんから多くを学ぶことができた。処方せん枚数の少ない薬局だったので、患者さんの顔を覚

え、同じ人に何度も服薬指導ができてとても勉強になった。

- ・調剤薬局だけでなく、ドラッグストアも併設なので、OTCの勉強もすることができた。薬剤師の先生方も熱心に指導していただき、理想的な実習先だと思った。
- ・服薬指導を通じてコミュニケーション能力を練磨する機会に恵まれ、コミュニケーション能力の重要性を認識した。
- ・系列店舗を見学することにより、薬局の業務を異なった角度から考察できるようになった。
- ・薬剤師会主催の研修会や学校薬剤師業務は役立った。
- ・在宅医療を見学することは非常に有益であった。
- ・毎日いろいろな患者さんと接していて、1人1人の患者さんをきちんとフォローするのは大変だと感じた。いろいろな患者さんと接するので、コミュニケーション能力がついた。
- ・薬局の地域への貢献は大きいとわかった。信頼関係や地域とのつながりを感じることができた。慢性疾患の患者に対して継続的に指導を行える点で、薬局の果たす社会的役割は大きいと思った。患者との距離が近いと感じた。
- ・知識面の強化の必要性や服薬指導のポイントなど、現場でしかすることのできないことを学ぶことができたと思う。処方意図など実践に応じた知識を得ることができた。
- ・病院と薬局との違いを知ることができて良かった。薬局の温かみを学んだ。
- ・薬局薬剤師の活躍が今後の日本の高齢社会の健康管理を支えていくと思った。また、病院より患者情報が少ない中で投薬をしていくので、一番病態や薬識がないといけないと感じた。フィジカルアセスメントの技術が求められていると感じた。

## 2) 悪かったこと

- ・仕事や患者さんの愚痴を言ったり、お菓子を食べながら調剤する姿を見て、がっかりする部分が多かった。
- ・17時以降になると学生アルバイトが来て実習生と同じことをしており、実習生が邪魔になっている印象を受けた。
- ・指導薬剤師の産休中に実習を開始したので、詳しい説明がないまま実習が始まった。薬局の他の薬剤師も「指導薬剤師の不在時に自分が指導しているのか・・・？」という立場の様で、実習のSBOをこなしていく事も大変な状況だったのが残念だった。
- ・薬局の薬剤師が忙しい日は、実習生に手が回らなくて課題ばかりの日が結構あった。調べることなら、薬局に来なくても・・・と思ったことが結構あった。
- ・実習を行った薬局はほとんど眼科の処方せんしか扱っていなかったのもっと幅広い科の処方せんを扱っている薬局で実習を行いたかった。
- ・薬剤師同士の指導方法を統一してほしい。人によって指導内容が異なるのは困る。
- ・ピッキングなどの単純作業ばかりで、処方せんの内容について触れさせてもらえる時間がなかった。服薬指導をもう少ししたかった。
- ・実習時間が日によって異なり、ばらつきが激しかった。

- ・ひたすら調剤に追われ、処方意図も分からずピッキングをするだけだった。その後、質問をしたくても、ピリピリしていて薬局内の雰囲気も悪いので聞けなかった。受け入れ体制を整えてほしい。
- ・自分からやりたいことを伝えない限り放置されピッキングを行っていた。病院では実習受け入れ体制が整っていたのに対し、薬局では整っていなかった。
- ・指導薬剤師が常駐せず講義等がなかなか進まず、最後は駆け足で実習が終了したのが残念であった。もう少し講義で学んだことを投薬等の実践に活かしたかった。
- ・実習中、学生の前で「実習内容について、よくわからないからやりたくない。」と言っている指導薬剤師がいた。指導薬剤師の適性を疑いたくなることがあった。
- ・実習生を受け入れる余裕がある施設か否かを調査するシステムを充実してほしい。体験程度で実習項目を満たすだけであれば、事前学習で十分である。

### 3. 病院、薬局共通

- ・多くの学生は指導薬剤師の親身な指導に感謝していた。
- ・挨拶や礼儀,そして自己の体調管理（健康管理）をしっかりと行うことの重要性を認識した。
- ・実習施設間で、内容に違いがあるためにできるだけ統一化してほしい。

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について（4）

実習に関する病院側の意見について：

1. 実習を受け入れて

- ・実習生を指導することが、自分の勉強につながった。
- ・実習生を担当した職員の業務理解度が増した。

2. 大学に対して

- ・学生であることの自覚を持たせて実習に送り出してほしい。また、成人であることも自覚させ、責任ある行動を心掛けさせてほしい。
- ・患者の前でタメ口になるなど、学生のコミュニケーション技術、接遇ができていない。
- ・臨床的な知識が少ない学生が多いので、事前に大学で教えてほしい。
- ・実習生が実習前に手術の可能性がある怪我を負ったにもかかわらず、自己判断で放置しており、場合によっては大きな事故につながる。大学において事前に体調管理をしっかりするよう指導して欲しい。
- ・大学による実習システムおよび評価段階（3段階、5段階）のバラツキがあるので、統一して欲しい。

3. 実習生に対して

- ・全般的に見て大半の実習生は実習態度、積極性も良好で、調剤業務をベースに病棟での服薬指導、チーム医療、各種部門の見学研修等薬剤師業務の基礎となる知識、技術を着実に吸収しつつ実習成果を上げていた。
- ・昨年度は、実習生の実習に対する態度や姿勢、ルールの遵守、身だしなみの乱れ、時間厳守に一部問題があったが、今年はとても態度が良いとの意見があった。また、昨年度は病棟実習の予習課題に取り組んでいない学生が一部いたが、今年は、多くの学生が真剣に取り組んでいるとの報告があった。
- ・実習生がⅠ期に薬局実習を経験していたので、技能なども身につけていて、呑み込みが早かった。
- ・実習生は与えられたことはできるが、そこからの発展した考え方が結びつかない。この部分が実務実習に求められていると認識はしているが個人差が大きく、指導者の負担が大きい。
- ・学生気分が抜けず、他のスタッフからどのようにみられているか、わかっていなかった。
- ・お客様気分、受け身、やる気が感じられないという意見が多かった。

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について（5）

実習に関する薬局側の意見について：

1. 実習を受け入れて

- ・質問も多く、活発に自発的な行動が多くみられた。最初から自分から進んで、何をしたらよいか考え行動していて高く評価できた。学生の着眼点が普段は自分がスルーするところを見ていて、実務に参考になることが多かった。自分自身、多くの刺激を受けた。
- ・学生がどのような教育を受けてきているかを知ることができ、受け入れる側も大変勉強になった。学生から病院実習の話が聞けるので、勉強になった。
- ・指導する喜びも多少感じられた。
- ・Web システムが使いやすかった。本人評価の到達度が分かるため理解度が確認できた。
- ・学生が目を見て話さないの、何を考えているのかつかめず、最後まで薬剤師として何をどうしたいのか分からなかった。

2. 大学に対して

- ・実習事前説明会時に実習生と面談できれば、緊張感がなくなり実習が円滑に行える。
- ・指導担当教員と面談日時を決める際、非常に忙しくて日程がないと言われた。大学の教員と薬局勤務者がもっと互いの状況を知り歩み寄っていかなければ、「形だけの実習」から脱却できないと思う。
- ・ジェネリック医薬品に関する授業を行ってほしい。
- ・マナーに関することを実習前にオリエンテーションなどで学生に教育してほしい。

3. 実習生に対して

- ・年齢からすると社会人であり、その自覚がほしい。学生気質が強い。
- ・実習生には、もう少しコミュニケーション能力を養ってほしい。

4. その他

- ・コアカリキュラムに縛られすぎている印象があった。もう少し柔軟でもよい。
- ・ドラッグストアで OTC の実習を行えるとよいのではないか

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について(6)

Webによる連携状況について:

- ・Ⅱ期の実習施設のwebシステム利用率は、99% (95施設中94施設)であった。
- ・Ⅱ期実務実習でのシステム利用施設数は、病院55施設中31施設、薬局80施設中62施設であった。
- ・昨年度までは評価入力および実習開始時や終了時の挨拶など数回の利用にとどまっていたが、本年度より少しずつ担当教員と薬剤師の連携が行われていた。
- ・Webシステムの利用は指導薬剤師からの評判が良く、連絡がすぐにとれて便利であるとの意見が多数であった。一方で、Webシステムを使用しない薬局も一部あり、紙媒体で対応した。
- ・今期WEBは使用せず、通常の訪問などを利用して連携を行った。次年度に向けてWEBの導入について検討、予算化を図っている。
- ・一部施設において、インターネット環境が設定できない、パソコンを準備できない、実務実習の記録の書き方に慣れていない等の理由から、紙媒体の実務実習の記録に変更した事例が認められた。
- ・独自に開発したWebシステムを使用しているが、継続的に使用している施設では、このシステムが標準のものになっており、スムーズに運用されている。
- ・すべての薬局施設とWeb(ITシステム)による連携を行っている。ITシステムの使い方が全く分からない指導薬剤師・教員がほとんどいない状況であり、本システムがかなり浸透している。
- ・WEBシステムの様式が複数あるので、統一してほしい。
- ・約2/3の学生がWebシステムを利用した。学生の状況を多くの教員が共有できるため、何かあった場合にも漏れなくスムーズに対応できた。学生の実習状況がリアルタイムで把握できるため、その内容が施設に連絡するきっかけとなり、連携する機会が増えたように感じられる。

平成24年度第Ⅱ期実務実習実施状況について(7)

評価実施について：

- ・実習中の形成的評価は3段階で行っており、最終的な評価は出席や指導薬剤師の意見などを加味して行っている。
- ・実習中の評価に関しては調整機構が設定した「3段階」評価を用いて行っている。他大学では独自の「5段階」を採用しているところもあり、二つ以上の大学を受け入れている実習施設にとっては、統一をされていないことが施設側を悩ませている。指導薬剤師側からの意見では「3段階」は評価しにくいという意見も聞く。
- ・評価表の使い勝手に対する苦情は以前ほどではなくなった。ただ、複数大学から実習生を同時期に受けている施設からは統一して欲しい旨の要望が出ている。
- ・実習施設間において、薬剤師による成績評価の考え方に違いが認められており、評価基準について施設間の差を無くしていく必要性が感じられた。
- ・評価漏れが意外に多く対応に困っている。